

Taketa City Gikai News

NO.44

平成28年11月1日発行

たけた 市議会だより

- 予算特別委員会 2
- 第3回定例会・第3回臨時会の議決結果 3
- 一般質問 4～8
- 政務活動費の公表とお知らせ 9
- 常任委員会の行政視察報告 10～11



竹田市老人クラブ連合会スポーツ大会

第3回定例会 予算特別委員会

平成28年度一般会計補正予算 **可決**

10億8,417万5千円増額
(総額：212億9,432万6千円)

平成28年第3回定例会・予算特別委員会が9月13日・27日の両日開催され、付託された一般会計予算を慎重審査した結果、全会一致で可決されました。

【補正予算の概要】

歳出

◆総務費

平成27年度決算剰余金処理に伴う基金積立金	4億3,000万円
内訳・財政調整基金積立金	2億3,000万円
・減債基金積立金	2億円

◆民生費

障害福祉費国庫負担金等返納金	2,849万8千円
生活保護費県負担金等返納金	2,947万7千円

◆衛生費

小規模給水施設支援事業費	1,061万2千円
小規模給水施設等災害復旧事業補助金	372万7千円

◆農林水産業費

九州産ピールプロジェクト事業	796万円
農地耕作条件改善事業	2,740万円
農道舗装に係る市単土地改良事業	2,200万円

◆商工費

わくわくスタンプカード機械更新補助金	250万円
外国客誘致に係るインバウンド対策推進事業	125万5千円

◆土木費

市営急傾斜地崩壊対策事業費	1,355万円
電線類無電柱化整備事業 (社会資本整備総合交付金事業)	7,747万4千円

◆教育費

文化会館建設事業	631万8千円
新図書館建設事業	572万9千円
現歴史資料館の再生合築整備事業	7,338万3千円

◆災害復旧費

農業用施設災害復旧事業費	8,605万3千円
道路橋りょう災害復旧事業費	5,023万円
その他施設災害復旧事業費(荻福祉健康エリア分)	9,275万8千円

歳入

平成28年度普通交付税 (額確定に伴うもの)	△1億6,193万7千円
市 税	1億774万6千円
国庫支出金	4,275万3千円
県支出金	8,723万2千円
繰入金	4,030万2千円
繰越金	8億4,123万7千円
市 債	8,010万1千円



▲更地となっている新文化会館建設予定地

平成28年 第3回定例会

平成28年9月5日～27日
議案等の議決結果

議決結果

条 例 案		
議案番号	件 名	結果
議案第 99号	竹田市特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	可決
議案第100号	竹田市防災行政無線通信施設条例の廃止について	可決
議案第101号	竹田市税条例等の一部改正について	可決
議案第102号	竹田市国民健康保険税条例の一部改正について	可決
議案第103号	竹田市林業センター設置条例の廃止について	可決
議案第104号	竹田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	可決
予 算 案		
議案番号	件 名	結果
議案第 91号	平成28年度竹田市一般会計補正予算(第4号)について	可決
議案第 92号	平成28年度竹田市立こども診療所特別会計補正予算(第1号)について	可決
議案第 93号	平成28年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計補正予算(第2号)について	可決
議案第 94号	平成28年度竹田市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)について	可決
議案第 95号	平成28年度竹田市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について	可決
議案第 96号	平成28年度竹田市介護保険特別会計補正予算(第2号)について	可決
議案第 97号	平成28年度竹田市簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)について	可決
議案第 98号	平成28年度竹田市水道事業会計補正予算(第2号)について	可決
一 般 案		
議案番号	件 名	結果
議案第105号～第109号	財産の貸付けについて	可決
議案第110号	財産の譲渡について	可決
決算認定案		
議案番号	件 名	結果
認定第 1号	平成27年度竹田市水道事業会計決算の認定について	認定
認定第 2号	平成27年度竹田市一般会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 3号	平成27年度竹田市立こども診療所特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 4号	平成27年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 5号	平成27年度竹田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 6号	平成27年度竹田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 7号	平成27年度竹田市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 8号	平成27年度竹田市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 9号	平成27年度竹田市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第10号	平成27年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第11号	平成27年度竹田市国民宿舎久住高原荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第12号	平成27年度竹田市国民宿舎直入荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
諮 問 案		
議案番号	件 名	結果
諮問第 2号	人権擁護委員候補者の推薦について	原案の者適任
請願・意見書案		
議案番号	件 名	結果
請願第 3号	犯罪被害者等に関する条例制定を求める請願	継続審査
請願第 4号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出についての請願	採択
意見書案第2号	地方財政の充実・強化を求める意見書	可決

賛否一覧表

※賛成・反対の双方があった場合のみ表示しています。

議員名(議席番号順)		佐藤	鷲司	山村	阿部	渡辺	岩屋	徳永	佐田	日小	森	加藤	吉竹	本田	中村	和田	後藤	足達	坂梨	審議結果
議案番号・件名		美樹	英彰	英治	雅彦	克己	千利	信二	啓二	秀之	哲秀	正義	悟	忠	憲史	幸生	憲幸	寛康	宏之進	
附帯決議案第3号	議案第91号 平成28年度竹田市一般会計補正予算(第4号)に対する附帯決議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○		可決

※議長は表決に参加しないため、表決結果は空欄

表の見方…○：賛成 ●：反対

平成28年 第3回臨時会

平成28年10月3日 議案の議決結果

一 般 案		
議案番号	件 名	結果
議案第111号	工事請負契約の締結について	可決

一般質問 市政を問う

9月8日・9日、7人の議員が一般質問を行いましたので、その内容を要約してお知らせします。
なお、原稿は質問議員本人が執筆しています。

公共施設総合管理計画について

吉竹 悟



問 国民宿舎久住高原荘は2年、スポーツ研修センターは1年の指定管理契約である。2施設合わせて55名ほどの従業員がいる。短期契約のために不安視する声が上がっている。両施設の今後のあり方を問う。

副市長 両施設は、市の財産である。このまま市が所有し維持し続けると、財政的な観点からみれば、次世代へ負担を残しかねない。指定管理から、一歩進め「更に民でできる事は民に委ねる」。例えば「民間への譲渡・売却」も選択肢の一部である。しかし、公から離れるとなると、例えば、過度に競争原理が働きサービスの低下、雇用の機会を失ったりで、久住の地域づくりに相反する恐れもある。このような課題を総合的に判断し、両施設の今後のあり方の検討を進め、適切に判断する。

税の収納状況について

問 これまで税の徴収については、公平性を担保するために、徴収は厳正且つ厳しく臨むとしてきたが、現状と滞納整理の状況を問う。

税務課長 徴収率は改善できているが、まだ多くの滞納額を抱えている。現在の滞納額は、一般市税が約2億6百万円、国保税が約2億8千万円と高額になっている。収入確保、公平徴収を念頭に、組織挙げて更なる努力をする。

市長 平成27年度の市税等の徴収率は、かなり改善したが、実態ではまだ多くの滞納額を抱えている。



▲久住スポーツ研修センター

本年度は、県税事務所特別滞納整理室から徴収専門員1名、市町村相互併任事業として、豊後大野市、由布市のそれぞれ3名の職員に徴税吏員証を交付し、徴収業務に協力を戴く。市では、昨年度から徴収強化に向けた機構改革を検討し、特に高額滞納者や徴収困難事案等の解決が急務であるため、来月10月1日付けで、税務課内に「特別収納推進室」を新設する。公平公正な税の徴収を行っていく。

質問した。

このほか、CATV事業について



阿部 雅彦

市民の運動やスポーツに関する取組について

問 子ども達から大人までが取り組む運動の現状や課題は何か。

学校教育課長 小・中学校においては、運動領域における1校1実践を

はじめ、体育の授業や部活動の更なる充実を図りたい。

生涯学習課長 市民の健康増進及び体力の向上、更には、地域コミュニティの活性化のための支援をしていきたい。

問 高齢者が介護予防のために取り組む運動の現状や成果は何か。

高齢者福祉課長 生きがいづくりや生活支援のため、介護サービスの中に誰でもできる体操等を取り入れ、運動や認知機能を改善する効果を出している。



▲介護予防運動「すごく元気になる教室」の様子

問 今年の県民体育大会の反省点や来年に向けての支援策をどのように考えているのか。

生涯学習課長 今後の課題として、新たな選手の発掘や指導者の育成に力を入れながら、新たな競技種目への参加も目指したい。

問 スポーツ振興のための総合的な計画の策定が必要ではないか。

生涯学習課長 市民のスポーツに関するニーズを把握し、現状と課題を整理して考えていきたい。

問 東京オリンピックに向けて、竹田市独自の取組を考えてはどうか。

生涯学習課長 ソフトボールの国際規模の大会の開催等、スポーツに係るインバウンドの取組の検討が必要と考えている。

直入支所長 スポーツ選手のコングレガーションづくりに最適である炭酸泉をアピールしながら、関係団体と連携し、スポーツ関連の誘致活動や観光振興に取り組みたい。

ふるさと納税の返礼品の取組について

問 主役となる返礼品づくりの今後の展開をどのように考えているのか。

企画情報課長 竹田ブランド44品目と共に、輸出用たまごとサフランを返礼品の主役と位置づけて活用していきたい。

佐田 啓一



竹田市の観光振興戦略について

問 4月の地震以降の竹田市への観光客の入込状況は。

商工観光課長 宿泊では地震直後で7千件を超えるキャンセルあり。5月の連休では例年の8割減。6月で半分程度になった。7月以降は「九州ふっこう割」が始まって70％一部では200％超の所もあり、ほぼ平年並みに回復。その他の観光施設では7～8月に入り、平年より若干低い程度にまで回復してきた。

問 第2期「九州ふっこう割」にどう対応していくのか。

商工観光課長 竹田市観光ツーリズム協会と連携し、宿泊施設向けの情報交換会を行い、インターネットにより「九州ふっこう割」を竹田市で使ってもらう取組を要請した。また、第1期では竹田ファンなどに「I MISS YOUキャンペーン」

ン」で誘客活動を行い、成果を挙げているので2期についても行う。9月以降は「ウェルカム商品券」を発行し、更なる誘客を進める。

問 7月25日、環境省は国立公園への訪日客誘致モデル事業として全国8か所を選定し、阿蘇くじゅう国立公園がその1か所に選ばれた。また平成30年度には高規格道路が開通する。これらを運動させての観光振興戦略をどう構築するのか。

商工観光課長 この事業は、東京オリンピック・パラリンピックのある2020年までに、今回選ばれた国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」にするために、国の各種予



▲久住高原と阿蘇山(出典:「阿蘇くじゅう国立公園」環境省HPより)

算を集中的に投入するもの。9月1日、国・県・関係市町村で「阿蘇くじゅう地域協議会」を設立し、12月をめどに「ステップ・アップ・プログラム」を策定する。高規格道路の開通をにらみ、久住高原をはじめ市内観光施設への誘導を図るため、ワーキングチームを早急に編成し、官民総力を結集して他に先駆けた戦略づくりを進める。

このほか、定年延長についての考え方、人事異動に関する基本原則を設定すべきであること、メンタルヘルス対策について、また久住高原の野焼き支援についてなどを質した。



山村 英治

養豚農業と環境保全について

問 菅生地区において、母豚千八百頭規模の繁殖施設建設が計画されて南河内自治会で説明会が開かれた。農業振興も大切だが、環境保全につ

いて地域の方々が心配し、既に住民署名による繁殖豚舎建設反対の嘆願書が市に届いている。今後、竹田市はどのように対応していくのか。

市長 産業振興と環境保全と、丁寧に解決する問題があるとすれば、市民の健全な暮らしが脅かされないように、双方の意見を聞きながら、慎重に取り扱っていきたい。

水害対策について

問 長雨で玉来新橋付近の護岸擁壁が滑落し、復旧工事のあと河川幅が狭くなった。土砂の堆積も進んでいる。浚渫工事を早急に、大分県に求めたらどうか。

建設課長 地域の方々の要請により、昨年度、県は4河川5か所の土砂浚渫工事を行った。当該地域の要請として、竹田土木事務所に上申する。

農業振興について

問 露地野菜生産農家の規模拡大に必要な大型機械導入にあたり、要望調査をして、大分県に対する補助枠や負担率拡大の要請活動は、急務ではないか。

農政課長 露地野菜の生産農家を対



▲菅生台地のスイートコーン畑

象とする大型機械導入補助事業に対して、枠の拡大や県費の上乗せを要請していく。

問 高原野菜のブランド化をどのようにしていくのか。

農政課長 生産量と高品質野菜の出荷体制を関係機関とつくり上げる。六次産業化に結びつけることで、ブランド化が果たせるものと考えている。

問 農家の高齢化対策についてどのように対処していくか。

農政課長 親元就農や、子育て出産による労働力不足対策支援の充実、椎茸種駒の助成、畜産クラスター制度等に取り組む。農業の縮小は地域経済の縮小に直結する問題であるので、計画的、複合的、継続的に高齢化対策に取り組んでいく。

佐藤 美樹



林業振興について

問 市有林の面積とその内、分収契約地の面積は。

財政課長 市有林は約1400ヘクタール、分収契約地は約570ヘクタールある。

問 市有林を皆伐後、植樹せず放置している山林はないか。

財政課長 直入地区の13ヘクタールと、長湯下野の分収林51ヘクタール



▲一部植樹予定の分収林(長湯下野)

を皆伐した。下野の分収林の一部を民間企業が植樹する企画がある。残りの伐採地は計画的な植林整備を行っていく。

問 山林保有者の高齢化、鳥獣害対策を含んだ管理放棄地対策は。

農政課長 森林整備を促進するため、施業の集約化、路網の整備、機械導入支援など、低コスト化を図る。鳥獣害対策として、シカネットの設置費を市と県が補助し、森林所有者の負担軽減に努めている。

問 山林保全について森林組合と長期ビジョンを共有するべきだが、どう連携を図るか。

農政課長 森林組合の森林経営計画を市が認定している。補助事業等で林業政策の連携をとる。

問 市の林業担当職員の人員の充実と専門性の向上を求める。

農政課長 現状で配置された職員的能力を高め、市民の要望に対応していきたい。

教育行政について

問 障がいのある子ども達のサマースクールが今年から休止となった。再開を求める。

社会福祉課長 来年度の再開に向け、関係機関と協議を進めていく。

問 ICT教育の今後の取組を聞く。

学校教育課長 国の方針で2020年にはプログラミング教育が始まる。教師の指導力の向上を図り、ハード整備を計画的に行っていく。

問 ネット依存症対策をどう行っているのか。

学校教育課長 ネット依存を深刻な

鷲司 英彰



図書館について

問 今日の図書館の役割について問う。

図書館長 図書館法第二条で、資料収集や整理、提供等により、利用者の教養を高め生活を豊かにするとあるが、時代の多様化とともに、図書館の役割も変化してきている。平成25年のアンケートによると、飲食やインターネット、交流できるスペース、更に乳児室など、従来の機能

問題と捉えている。保護者や子ども達に対しての講演会を開いたり、学校と家庭の連携を取り、使い方のチェックを進めている。また、ノーマディアデいの取組を行っている学校もある。

問 「タケハコ教育」の概要を聞く。

企画情報課長 有効な放課後の時間活用や、都市部と過疎地の教育意識の乖離の解消を目的とする事業。



▲建設中の新図書館

の希望が多くあった。

問 図書館の機能向上に伴う職員の資質向上をどのように行うのか。

図書館長 移転による休館期間が3か月ある。その間に、新図書館の内容については、職員はある程度把握できる。また県立図書館主催の研修

会等で資質向上を図る。

問 図書選定はどのようにするのか。

図書館長 新図書館には3万冊そろえる予定である。平成17年制定の、竹田市立図書館資料収集方針を基本に、司書による選定会議を開き、またブックフェアに参加し、本を選んでいる。農業や芸術関係の竹田らしい本もそろえる計画である。

共有地について

問 都野山村広場に、日除け雨除けの設置はできないか。

生涯学習課長 市内の他施設の状況を見ながら、改善に向け検討したい。

問 周辺の美化のために、行政主導で利用者連絡会等できないか。

生涯学習課長 現在、ゲートボール協会、スポーツ少年団、五か組共有地に除草を含めた清掃を委託している。地元や利用者と協議しながら、設立の可能性を検討していく。

問 周辺のU字溝が壊れていて、降雨時斜面を洗い流しているが、対応できないか。

生涯学習課長 壊れているのを確認した。軽微なうち、早急に復旧に取りかかる。

渡辺 克己



祖母・傾・大崩ユネスコエコパークについて

問 祖母山のふもとに位置し、高齢化と過疎化の著しい姫岳地区に、画期的な「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」登録への取組であるが、移行地域となる姫岳地区・宮砥地区の取組状況についてはどうか。



▲神原溪谷と祖母山

企画情報課長 地域は祖母山信仰のある地域。希少生物等の保護や観察のなされている地域である。行政と一体的な取組がなされている。

問 高齢化著しい地元姫岳地区にあつて登録後は、「自然と共生した持続的な発展」が必須条件となるが地域への振興策について聞く。

企画情報課長 地域住民との関わり合いを構築していくことが、行政の役割として重要である。

国民健康保険税について

問 国民健康保険税については、24年度以降、限度額が大きく変更されている。その金額、要因はなにか。

保険健康課長 25年度77万円、28年度89万円、22年度12万円の増。医療費の増と被保険者数の減が要因である。

問 20年度と27年度の比較で世帯数、被保険者数、加入者全体数、内65歳以上、限度額世帯数、軽減世帯数、その他の世帯数についてはどうか。所得を同じとし、市職員との比較はどうか。

税務課長 項目ごと数字で答弁した。

問 加入者数の減の中、限度額世帯の大幅減、軽減世帯の増、中間世帯

の大幅減と高齢化による医療費の増が保険税の増となっている。所得354万円で竹田市70万6千円、豊後大野市71万9千円、由布市60万円、市職員57万4千円となっている。次に、国民健康保険の広域化について聞く。

保険健康課長 30年度から運営主体が県になる。市は保険税算定や徴収事務を担当する。

歴史資料館について

問 歴史資料館費は第1回定例会の否決予算だが、今回計上の理由はなにか。

文化財課長 早期完成を望む市民からの陳情等があったことにより今回計上した。

問 前回と同額での予算計上だが、時系列で考えると対象建築物（新築面積）が違うがその理由は。

財政課長 発言通告に無い質問なので、違う機会に答弁する。

問 歴史資料館とコミュニティセンターの設計者はなぜ同じとしなければならないのか。

市長 城下町の再生を全体の事業の関連性で考えているため。

平成27年度 政務活動費収支報告書一覧表

※交付上限額の18万円を超える経費については、各議員の個人負担

単位:円

議員名	佐藤美樹	鷺司英彰	山村英治	阿部雅彦	渡辺克己	岩屋千利	徳永信二	佐田啓二	日小田秀之
項目									
調査研究費									
研修費	158,428			90,862		129,107	111,883	91,562	
広報費		141,696	119,124	54,655	119,556				
広聴費									
要請・陳情活動費									
会議費									
資料作成費	1,150			1,500					
資料購入費	17,172	38,304	60,876	14,556	60,444	50,893	67,368	29,018	63,084
人件費									
事務所費									
合計	176,750	180,000	180,000	161,573	180,000	180,000	179,251	120,580	63,084

議員名	森 哲秀	加藤正義	吉竹 悟	本田 忠	中村憲史	和田幸生	後藤憲幸	足達寛康	坂梨宏之進
項目									
調査研究費									
研修費	91,562	91,562	176,314			180,000	91,562	91,562	97,956
広報費				141,696					
広聴費									
要請・陳情活動費									
会議費									
資料作成費									
資料購入費	61,392	20,676	1,934	8,400			8,400	12,268	
人件費									
事務所費									
合計	152,954	112,238	178,248	150,096	0	180,000	99,962	103,830	97,956

交付申請なし

お知らせ

竹田市議会 市民との意見交換会

今回は、「高齢者施策と地域社会のあり方について」を全地域共通のテーマとして、また「地域振興について」を地域ごとのテーマとして、二つの柱で意見交換を行います。多くの皆様のご参加をお待ちしております！

期日／平成28年
11月10日(木)・11日(金)・14日(月)
時間／午後7時～8時30分



▲昨年の様子(明治分館)

開催日時	会場	対象地域
11月10日(木) 午後7時～8時30分	竹田分館	竹田東部(竹田、岡本、明治、豊岡)
	菅生分館	竹田西部(玉来、松本、菅生)
	宮城分館	竹田北部(宮城、城原)
11月11日(金) 午後7時～8時30分	荻公民館	荻地域
	久住公民館	久住地域
	直入公民館	直入地域
11月14日(月) 午後7時～8時30分	宮砥分館	竹田南部(入田、姫岳、宮砥)

お問合せ／竹田市議会事務局庶務係 ☎63-4813

常任委員会の行政視察報告

総務常任委員会

委員長 岩屋 千利

去る10月4日から10月6日の間、総務常任委員会の行政視察地として、青森県八戸市及び秋田県大館市を訪れ、両市の先進的な取組について、研修を行った。

まず、八戸市では八戸ポータルミュージアムで研修を受けた。この施設は市内の観光スポットに多くの方を誘う、文字どおり玄関（ポータル）的な役割を担ったもので、まちづくりや起業の支援を目的に、芸術・文化、観光、子育て等々、複合的な要素を混在させた多様なアイデアが行き交う場を創出しており、結果として人通りが減少傾向にあった市街地が元気になり、このプロジェクトの実践により相乗的な効果として、八戸市の広い地域の活性化につながった。



▲青森県八戸市「八戸ポータルミュージアム」

当該施設は、総工費が約41億円（合併特例債）で地上5階建ての凛々しい建物であり、近年、全国的に中心市街地の空洞化が懸念される中、八戸の顔とも言えるこの施設を、人々で賑わい溢れる空間としている。そのための活性化策であり、取組であると胸を張る。

今回の研修で終始、説明をしてい

ただいた佐々木結子館長の自信に満ちた語り口は、この事業における初期投資や年度ごとの高額な運営費等の説明の折にも、臆することなく淡々としており、そのことから、このプロジェクト、この事業に対する市当局の強い信念と市民との絆や一体感の強さを垣間見る思いがした。

次は、秋田県大館市の「民間事業者による空き公共施設の有効利用について」の研修で、大館市は閉校・閉所となった小中学校や障がい者施設等の空き公共施設を民間事業者に委ね、有効活用することにより、地域の活性化や新たな雇用の創出を図っている。

具体的には、「公共施設等利用促進条例」等の規定に基づき、空き公共施設を活用して行う事業で、新たに常用の従業員を雇用する事業者であって、有効に施設を活用、地域活性化に資すると認められた者を指



▲秋田県大館市

定業者として認定し、施設の譲渡、貸与等の奨励措置（譲渡額の減額、増築・改築費用の助成、支援金の交付、税の減免等）を講ずることとしている。

大館市は平成17年6月、他の2町を編入の形で合併。公共施設等の統廃合で、幼稚園2園、小中学校8校が用途廃止されており、これらの対策としても、「空き公共施設有効活用事業」に鋭意取り組んでいるとのこと。

なお、現状と課題としては、当該施設が目的外使用となることから、財産処分や国への補助金返還の事務処理のほか、借主である民間事業者の事業の継続性の判断等を挙げていた。本年度の2市における研修内容は、そのいずれも、今後、議会活動が続いていく上で、直接・間接を問わず、大いに参考となるものばかりで、意義深い研修であったことを付し報告とします。

産業建設常任委員会

委員長 佐田 啓一

市民協働による 地域おこしを学ぶ

栃木県那須塩原市（人口11万6千人）の農観商工連携による地域産業おこし

当市では、那須塩原市ならではの魅力ある商品（那須塩原ブランド）の開発と販路拡大、それによる地域活性化を狙いとする施策が展開されている。平成22年、消費者団体を含むすべての団体37団体からなる「那

須塩原市農観商工連携推進協議会」を立ち上げ、生産、加工、宣伝、販売まで連携した取組をしている。

協議会は多くの経済団体が関わっているため、事業を進める上で協力や理解が得やすい環境となっている。6次産業化については各企業が原料生産者、加工者、販売を連携して行っている。

魅力ある地域ブランドの創出については、那須塩原ブランド認定制度を作り、協議会が独自の基準で厳しく審査をしている。そのため、ブランドの認定数はスタートしてから6



▲栃木県那須塩原市「那須口マーケット」

年間で17品目と少ない。認定されているのメリットは①商品の評価が上がる。②商品の取り扱い店舗が増える。③「那須塩原ブランド」のPRを協議会がしてくれる。④販売額がアップする。等である。研修の最後に市内商業施設、那須ガーデンアウトレットに出店している「那須口マーケット」を視察した。広大なスペースに店舗がいっぱい入っていて、そこには「那須塩原ブランド」をはじめ、地元産商品が所狭しと並んでいた。

販売額は教えてくれなかったが、開業以来8年間で450万人が訪れたという。

山形県^{かみやま}上市市（人口3万2千人）の上山型クアオルト事業

この事業展開のきっかけは、医療費、高齢化率が県内でも上位だったため、市民の健康づくりと産業振興を目的に、平成21年度に国の「地方の元気再生事業」でスタートした。ここはウォーキング中心であり、自然の起伏や景観を利用したウォーキング8コースを整備し「クアオルト健康ウォーキング」と命名し取り組



▲山形県上市市

んでいる。また、メニューとして①毎日ウォーキング ②早朝ウォーキングなど5つのパターンを用意している。参加者の実績は、スタート時の371人から平成27年では1万3794人と毎年1千人〜2千人が増えている。

参加者には市内温泉施設の無料入浴券が配布され連携をとっている。もう1つの柱は「旬産旬食」で、上山ならではの料理や商品でのおもてなしで産業振興に取り組んでいる。今回の研修は、いくつかの事例で参考となった。さらに研究し形にできればと思う。

議員ソフトボール監督 後藤 憲幸



大分県民体育大会、議員ソフトボール大会は、宇佐市総合運動場で行われた。

相手は豊後高田市。竹田市が先行で、初回3点を入れ、まずまずのスタートであった。しかし、相手のピッチャーが上手で、流れが変わった。竹田市選手の平均年齢も上がった中、良く頑張った。竹田市も後半に追い上げたが、最終的には15対13で惜敗。

しかし、面白かった場面は、サードとホームに挟まれた竹田市の選手が、相手のエラーで帰塁できた場面。見ている人は、笑いの多い試合で楽しそうだった。

翌日は、足腰の痛みで足を引きずりながら歩く方がいたが、大きなケガもなく終わった。ソフトボール選手の皆さん、ご苦労様でした。



『県民体育大会』結果報告

議員陸上監督 坂梨 宏之進

任期最後の議員陸上だ。400mリレーではぜひとも上位入賞をしたい。去年より1秒であるが早く走りできれば夢は叶うはずだ。皆で知恵を絞った。そうだ、リオオリンピックで日本チームが使ったアンダーパスでバトンを渡せば、無駄な動きもなくスムーズにバトン渡しができるはずだ。

練習を重ね本番を迎えた。1番走者の阿部議員から2番走者の鷺司議員、3番走者の吉竹議員、竹田市議会一の俊足の持ち主である4番走者の徳永議員へとバトンは繋がれた。なんと素晴らしいバトンリレーであった。素晴らしいであるが故に、もたつきが無く、ぐんぐんと上位に上がってゆく。県下18郡市中、なんと3位で入賞。さすが竹田市議会のチームワークだ。私は監督として鼻高々に会場を後にした。



昔は、弁当箱を開くとふたについていた御飯粒から先に食べ、次に御飯を食べるように教えられ、一粒の米を大切にするように教育を受けた。現在は飽食の時代、消費期限切れの食品は、捨てられている。又、水田の米は補助金で飼料米が植えられている。牛や豚鶏の飼料米の方が、人間の食べる米より高くなっている社会。一粒の米を大切にしている時代から随分変わった。国は、食糧自給率を上げようとしている。しかし、国内で生産される食糧自給率は40%を切っている。

編集委員 後藤憲幸

あとかぎ

